平沢復興大臣記者会見録

(令和2年12月9日(水) 16:23～16:30

於) 飯舘村役場2階第1会議室)

1. 発言要旨

お疲れさまでございます。今日はまず南相馬市で小高ワーカーズベース、いろんな仕事をつくり出している会社ですけれども、こういったところを視察させていただきまして、その後すぐ近くが柳美里さんのフルハウスという書店があると聞きましたので、そこに行って、おられた柳美里さんともいろいろ話をさせていただきました。

その後は浪江町に行きまして、福島舞台ファーム、農業のいろんな取り組みをしている会社ですけれども、そこの意見交換と、柴栄水産の視察を行いました。

その後は飯舘村、ここに来まして、長泥地区での環境再生事業を視察し、そしてただいま杉岡村長と意見交換を行ったところでございます。

飯舘村で、住民の皆さんの方とお会いして。そこでは農林水産省の協力も必要なので、是非来られるようにしてほしいということをおっしゃったので、帰りましたら農林水産省の方に来るように言いますけれども、農林水産省の方はもう既にこの役場に来ておられるそうでございます。ですから住民との接触の場にこれからどんどん出るように、私からも村長さんにもお願いをしておきました。

それから村長さんとの話の中では、移住・定住等の促進のことについていろいろ話が及びまして。これについては国としても大事なことはそのとおりなので、しっかりと応援させていただきたいということで話をさせていただいたところでございます。

それから明日私は、総理が宮城県東松島市、それから石巻、それから岩手県陸前高田、それから宮古市を訪問されますので、その訪問に同行させていただく予定でございます。

それから、この後私は6時過ぎから福島市で講演させていただくことにしております。

私からは以上です。

2. 質疑応答

(問) 今ほどお話があった、村長との意見交換の中では、移住・定住のお話が主に出ていたということで、それ以外のお話は特にありませんでしょうか。

(答) もちろんいろんな話がありました。村長さんも、今、この前当

選されたばかりですので、村長さんもお仕事に慣れましたでしょうかと、もともと詳しく知っておられたんじゃないですかというような、そういった話とか。村長さんは御住職で、何かいろいろそういった御住職としてのお話もございました。いろんな話がありましたけれども、定住・移住の問題は、私のほうからもこれは国としてもしっかりと取り組んで応援していかなきゃならない問題だということで話をさせていただきました。

(問) 震災から間もなく10年になりますけれども、大臣も視察されました長泥地区に関しては、帰られない村民がいて、その実証実験が今年本格化していますけれども、まずはこの10年たつての現状というのはどのように受け止めてらっしゃいますか。

(答) 一言で言えば、まだこんな状況だということについては、村民の皆さん、県民の皆さん、国民の皆さんに大変申しわけないなど、本当にそういった気持ちでいっぱいでございます。長泥地区で環境省の方が言っておられましたけれども、明日はまた新しい検証結果の数値が出るそうですので、その数値等を見まして、もし数値がよければ、さらにこの地域を農業の盛んな元気な地域にするべく、しっかりと応援させていただきたいし。それだけじゃなくて、ほかの面でも、本当に誰もがここで喜んで住める、それで楽しく生活できる、そういった地区にするために、国としてもしっかりと取り組んでいきたいと思っております。

(問) そういった中で、長泥地区の避難指示解除ですとか、除染の程度というのは、どのように大臣は考えてらっしゃいますか。

(答) これは数値を見ていろいろと検討させていただきたいと思っておりますけれども、いずれにしても、いろいろとこの問題で地域の住民の皆さんにいろいろと御迷惑をおかけしていることについては、大変申しわけなく思っています。

(問) 杉岡村長から大臣へ要望など、何か意見といったものはありましたでしょうか。

(答) 村長さんのほうも一生懸命頑張るんで、国のほうでしっかりと応援させてほしいと、こういう御要望はございました。

(問) 環境再生事業を御視察なさったと思っておりますけれども、広大な農地がつくられようとしています。今後、問題となるのはその担い手だと思っております。その担い手がないことには農地が使われないこととなります。それに対して復興庁としては何をしたいと思っておりますでしょうか。

(答) 先ほども申し上げましたとおり、特措法の改正で、農地集積を促進する特例というのを措置したわけですけれども、そのほか地域外からそういった担い手のような方も含めて、いろんな多くの方が移住・定住してくれるように、それを促進するために国とし

てしっかり取り組んでいきたいと思っておりますけれども、具体的なことはコメントを差し控えさせていただきます。

(以 上)